

## スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大 学 名	関西学院大学
整理番号	B23
構 想 名	国際性豊かな学術交流の母港「グローバル・アカデミック・ポート」の構築

### ◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価)  <b>A</b>	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント)	<p>本構想は、教育 OS (Operating System) の刷新を含めた大学改革の断行により、学生・教職員の国際流動性を高め、日本の高等教育のグローバル化を牽引することを目的に、我が国と海外の学生・教職員が国を超えて相互に往来し、「国際性豊かな学術交流の母港『グローバル・アカデミック・ポート』」を構築することにより、国や地域の垣根を超えて協働出来る「主体性」・「タフネス」・「多様性への理解」等を兼ね備えた「世界市民」の育成を目指す取組である。</p> <p>構想の実現に向け、学生の視野を広げるための「ダブルチャレンジ制度」を創設し、国際ナショナルプログラムやハンズオン・ラーニング・プログラム、副専攻プログラムを通じて多くの日本人学生を海外に送り出しており、日本人派遣学生数は数値目標を上回っている。また、交換留学を目的とする海外協定校も増加し、混住型国際教育寮3寮の増設による外国人留学生数も数値目標を大きく上回るなど順調に伸びており、期待どおりの成果を挙げている。</p> <p>国連・国際機関などへのゲートウェイ創設に向けた実践的な教育として、学部での「国連・外交プログラム」や大学院「国連・外交コース」の開設により、高大接続から大学院修了までを見据えた人材育成スキームを構築し、国際機関職員や国際協力、外交分野のプロフェッショナル人材の養成に努めている。また、本構想を推進する組織として、学長を本部長とする「グローバル化推進本部」を設置し、理事長・学長のリーダーシップに基づく総合的なマネジメントのための「総合企画部」を事務局として、法人（経営）と大学（教学）を一体化させるガバナンス改革を進めている点も評価に値する。</p> <p>一方で、シラバスの英語化やクォーター制導入の進捗が遅れが見られることから、これらの課題を分析し、状況の改善に取り組むことが必要である。また、今後、外国人留学生数を増やすためには、渡日前入試など、受入れから卒業後の一貫した取組が必要であり、外国人留学生 OB・OG との連携は極めて重要である。彼らとの交流継続や同窓会ネットワークを更に強化していくことを期待したい。</p>